

刻む会 たより

No.47

2012. 12. 04

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

代表 山口武信

事務局

宇部市常盤町一―一九(宇部緑橋教会内) Tel.0836(二)8003

活動カンパ

振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 015900732405

名義 長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

追悼碑建立募金

振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 01370998603

名義 長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑建立基金

ホームページ

<http://www.chouseitankou.com>

いよいよ、建立――！

澄田 亀三郎

『刻む会』の源は、一九八〇年に当時在日大韓基督教小倉教会の故崔昌華(チオエ・チャンホア)牧師が外国人登録法の指紋押捺を拒否されたことに始まる。あれから三〇余年、今、『長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑』(強制連行韓国・朝鮮人犠牲者と日本人犠牲者のピーヤを模した二本の碑)が建つ。感無量である。

これまで日本人の戦争責任を感じる多くの人々によって、この運動が支えられてきたことを痛感する。とりわけ、事務局の場所を提供してくださると共

にその責任を担ってくださった宇部緑橋教会と歴代の牧師達の協力がなかったら、今日の喜びの日を迎えることはできなかったであろう。

勿論、我々は日本人犠牲者の事を忘れてはいない。当時長生炭鉱で働いていた人達の中には官憲に追われて身を隠していた人や沖縄の人もいたと思われる。故に、二本の『碑』を建てる意味は大きい。

過日、広島県三次市の奥にある中国地方最大といわれる『高碁(こうば)ダム』に行った。このダム建設計画は第一次世界大戦前後からあったようだが、一九四〇年(昭和一五年)三月着工、工事は戦中・戦後と続き、一九四九年(昭和二十四)一二月に竣工した。

この工事には二千人とも四千人ともいわれる朝鮮半島から来た人々が働き、七〇八十人の犠牲者が出たというが、その実態は未だに不明である。現地には、ダムの施工者(現在の中国電力)が建立した『慰霊碑』があるが、そこには朝鮮人の苦しみもまた犠牲者の氏名も全く刻まれていない。

日本には侵略戦争の歴史がある。無論他の先進国にもあるが、日本は、アジア特に中国や朝鮮半島の人々と共存共栄していかねければ日本の『将来』はない。

『碑』が完成しても、日韓・日朝友好を追い求めていきたいと思う。



「長生炭鉱水没事故に関する韓国真相調査報告書」(日本語翻訳)を読んで

「조세이탄광 수몰사고 진상조사 보고서」

長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

■ 内岡貞雄

1. はじめに

二〇〇九年七月、韓国遺族会の金亨洙(キム・ヒヨンス)会長と楊玄(ヤン・ヒュン)



「委員会」申榮淑課長と山口代表、沖のピーヤを調査

2005. 4. 22 (サンデー毎日より)

副会長そして通訳の堤美貴さんの三人が宇部市の床波海岸の追悼碑建立予定地を視察に来られ、その時に日帝強占下強制動員被害真相糾明委員会による「長生炭鉱水没事故に関する報告書」の結論部分(日本語訳)をいただきました。そこには貴重な示唆に富む内容が書かれていたので、改めて真相糾明委員会に関する記事を読み直しました(「刻む会」よりN.O.・三〇)。韓国政府下の「真相糾明委員会」(以下、委員会は、二〇〇四年三月に国内法として制定された時限立法(「真相糾明法」)に基づいて、日帝時代の強制動員被害真相を糾明し「歴史の真実」を明らかにすることを目的に立ち上げられたものです。

長生炭鉱の「水非常」で犠牲になった朝鮮人労働者で、身元確認された一三五名中七二名の遺族が「委員会」に被害申告を行ない、そうした取り組みの中で長生炭鉱元労働者四名の生存者が明らかになりました。「報告書」で証言する金景鳳(キム・ギョンボン)さんと薛道述(ソル・ドスル)さんの二人は、「刻む会」主催の六五周年追悼式(二〇〇七年二月)に来宇され、私たちに「貴重な証言」をしてくださいました。

「委員会」による長生炭鉱の報告書はハングル版で二〇〇七年八月に発行されました

だが、日本語翻訳はありませんでした(許光茂「ホ・グァナム」氏を中心の調査専門委員)。五年後の本年四月に「対日抗争期強制動員被害調査報告書」日本語翻訳委員会(以下、「翻訳委員会」)が東京で立ち上げられ、全国三十一カ所の強制動員報告書と一五地域の証言集が日本語翻訳される運びとなりました。完成は来年あたりになりそうですが、日本語版の発行は「強制動員被害」に関する諸問題を必ず前進させるものと思います。長生炭鉱の水没事故の報告書もその対象になり、私の知人のお父さんに大部分の翻訳をお願いしました(前半の一部は「刻む会」の大和裕美子さんが、結論部分は洪川在住の堤美貴さんが翻訳)。今年の八月に草稿が出来上がり、一緒に校正作業を手伝わせていただきました。韓国政府事業の一環だけあって、「報告書」の内容は現存する資料収集や現地調査からのもの、あるいは関係者の詳細な聞き取りに基づいて構成されており、今回初めて知った事もありました。「報告書」を読んで感じた事柄を述べてみたいと思います。

2. 先達研究者

長生炭鉱の水没事故に関する書籍はきわめて限られています。「炭鉱写真集」(戦前

篇二〇〇八年 宇部市発行）や「宇部市史」（通史編 下巻 一九九三年）などは概的な内容ですし、郷土関係の研究書物は「刻む会」代表山口武信さんや布引宏さんの労作が何本か見られます。東京で発行された長生炭鉱水没事故関係の論文は長澤秀さん（朝鮮史研究者）と梶村秀樹さん（神奈川大学教授）のものしか見当たりません。

一九七六年、山口武信「刻む会」代表が「宇部地方史研究」に論文を発表し長生炭鉱に関する研究の先陣を切りました。続いて一九八二年に梶村秀樹さん（一九三五～一九八九）が、水没事故現場から奇跡的に生還した李鍾天（イ・ジョンチョン、当時静岡市在住）さんから丁寧な聞き書きをしています。梶村さんは東京大学（東洋史学科）で朝鮮史を専攻・研究され、国内朝鮮史研究の第一人者として知られた方でした。梶村さんのすばらしいところは単に朝鮮史研究者としてだけでなく、常に朝鮮人の側に立ち彼らの人権問題を提起し続けた彼の立ち位置です。梶村さんは「海がほげた！」記録集（梶村秀樹著作集第六巻「在日朝鮮人論」明石書店 一九九三年P一〇八～P一二六）の最後の部分で言われています。「李鍾天氏は波乱の生涯のすえに、慶尚北道の故郷に錦をかざったわけでもなく、酷

使ゆえに早く痛んだ身体以外に何が残ったわけでもない。回想の『一つ一つのひだごと刻みこまれている李鍾天氏の想い』を、私たちは正確に受けとめなくてはならない。また、梶村さんが李鍾天氏の証言から特に注目したのは、長生炭鉱の坑内夫は監督を除いて全部朝鮮人だったとしている点です。「朝鮮人労働者の比率を三〇%以内にとどめるといのが官憲側の方針だったといわれるが、もし李氏の証言のとおりなら、監督・取締り・坑外夫・事務員を加味して考えても、恐らく朝鮮人が過半数を占め、その方針に反していたことになる。李氏と接触のない別の坑内現場には日本人もいたという可能性もなくなりますが、とりわけ危険な炭坑であったため日本人坑内夫のなり手がなくて、実際に李氏のいうとおりの実情になっていったということも充分考えられると思う」。

また「報告書」は、福岡鉱山監督署が長生炭鉱の坑夫の安全性無視と無謀な採炭作業を見抜けなかった、いや見抜く努力を怠っていたのではないかと指摘しています。当時、戦争遂行の国策に従って、採炭作業が何よりも大事ということに胡坐（あぐら）をかき、安全のための業務を怠っていたとしか考えられないと「報告書」は結論づけ

ています。

3. 「報告書」からわかったこと

「報告書」から明らかにになった事柄を列挙します。

- ①岸のピーヤと沖のピーヤの間隔は一九五mである。
- ②長生炭鉱は事故のあった本坑に重点が置かれ、事故後は宇部炭田の上位ランクから消えた。
- ③長生炭鉱は一九三九年度から一九四一年度までの朝鮮人動員承認数・雇用数でダントツの人数を示す。これは一九三九年以前から朝鮮人労働者が多かったことが背景にある。
- ④坑内の坑道はアルファベットのV字型で、最も低い部分にポンプ室（五〇馬力、一五〇馬力）があり、二四時間稼働した。
- ⑤採炭夫（二交代）の一番方は（午前六時～午後四時ないし午後五時）で、二番方は（午後六時～午前四時ないし午前五時）まで拘束された。（朝鮮人労働者は一番方が多い）
- ⑥長生炭鉱（福岡鉱山監督署通達）は二つの事項を違反↓●払掘禁止事項↓●長生炭鉱は海底第四紀層が七mなので、第三紀層の厚さが三七mは採掘禁止。（第三紀

層は四〇m以上必要と規定)

⑦在籍謄本による公式の水没事故発生時刻は一九四二年二月三日午前一〇時である。

⑧水没事故犠牲者は朝鮮人一三四名(他二名は氏名不詳)、日本人四七名の計一八三名である。

⑨朝鮮人犠牲者の七五%は慶尚道(キョンスンド)からである。(慶尚北道から五〇%)

○薛道述(ソル・ドスル)さんの証言から(一九一八年生の慶尚北道浦項出身、二〇歳の時連行された)↓(一九三九年一月) 関釜連絡船で下関到着後、小さな



65 年ぶりに長生海岸に立つ朝鮮人元労働者

(右が薛道述さん、2007 年 2 月)

船に乗り換え長生炭鉱棧橋まで連れてこられました。生活の場となった朝鮮寮は口の字型の板塀で囲まれ、四棟ありました。一つの食堂で数百人がご飯を食べられました。薛道述さんの番号は二二二七番で、この番号が函(炭車)に貼られて採炭量が計られました。

薛道述さんの労務管理カード(一九四〇年か一九四一年のもの)には、七月は二一日分、八月は二〇日分、九月は二七日分の採炭量が記入されています。正味出炭(ボタを除いた重量)の一日平均は、七月が五・二トン、八月は五・六トン、九月は五・六トンで、長生炭鉱の函は一函〇・五トン積みなので薛道述さんは一日平均・十一函の出炭をしていたことになります。会社からみれば「よく働く坑夫」ということだったのでしょうが、薛道述さんにとっては現金で労賃を貰ったこともなく、もらうのは金額を書いた用紙だけでした。本当に故郷の家にお金が送られていたのか確かめる方法はありませんでした。薛道述さんは一番永く長生炭鉱に居りましたが、坑内の仕事は「きつくてねえ」と言われています。

水没事故当日、夜間勤務を終えて寮に

帰り(午前七時頃)寝ようとしていた時、会社の人が事故を知らせに来ました。本坑口付近は、事故に遭った坑夫の家族や仲間、会社関係の人々や警察などが集まっており、喧噪のなかにありました。坑口を塞ごうとしたのは、遺族たちと会社職員・警察などがはげしく言い合い、何らかの事故が発生するかもしれないという「二次的被害」を防ぐための措置であったと思います。私はその後、新浦の第二坑の坑内で働きましたが、坑内は湿気が異常に高くものすごく暑かったことを覚えています。(送風・排気設備が十分でなかったことが想像できる)

4. 終わりに(多くの仲間と連帯)

今回の「報告書」は六〇ページ近い内容で、私たち「刻む会」にとっても有用な資料ですが、「強制動員被害」の諸問題に取り組んでいる方々とも連帯のきっかけになるのではと思います。広島・長崎における朝鮮人の原爆被害に対する真相調査(強制動員された朝鮮人労働者を中心に)、筑豊の「麻生鉱業(株)」に強制動員された被害者に対する真相調査、長崎県崎戸町(旧三菱崎戸炭鉱)の朝鮮人死亡者問題に関する真相調査、終戦直後の吉岐・対馬地域におけ

る帰国朝鮮人の海難事故及び犠牲者の遺骨問題に関する真相調査等々、私たちは近隣地域で起こっている事件を知り、学ぶことも必要になります。

「報告書」は、長生炭鉱の水没事故は単純な「事故 (accident)」ではなく、会社側の違法行為と行政機関 (国・県・宇部市並びに福岡鉱山監督署) の安全性軽視や管理の不行き届きをもたらした人災、つまり「一つの事件 (case)」であると断言しています。この点を踏まえ、『遺族の方々の声に謙虚に耳を傾けながら』、追悼碑建立後の運動を進めていかなくってはならないと思います。

「オリジナルポストカード」

本日発売開始 頒価200円(5枚セット)
地元写真家等によるピーヤの写真絵はがき。カラー4種、モノクロ1種。
売上は「追悼碑建立」のために全額用いられます。



宇部市行政と追悼碑

小畑太作

長生炭鉱水没事故から七一年を迎えようとしている今この時、床波漁港前に念願の土地を入手してから三年余り、いよいよ追悼碑の完成の日を間近に迎えようとしている今この時。喜びを覚えると共に、しかしその一方で、幾人もの犠牲者遺族が亡くなる程の時の経過を思う時に、わたしたちの力不足に忸怩(じくじ)たる思いを禁じ得ない。

ここに記すことは、これまで殆ど外部に報じることをしなかった、否、出来なかった事柄である。それは、宇部市行政との度重なる交渉についてである。報告することが出来なかったのは、果たしてその実りが皆無といってよいほどになかったことがその理由である。しかし、いよいよ追悼碑建立を迎えようとしている今、一つの節目として、これまでの宇部市行政との交渉の概略を記しておきたいと思う。

土地の入手以降、いよいよ追悼碑そのものの建立に向けて具体的な活動を始めてからの宇部市行政との交渉は概ね一六回に亘る。「概ね」というのは、公式の協議以外

の、そのための事前協議や、協議における行政の不誠実な対応への抗議行動等があるからである。協議の期間は二〇一〇年七月から二〇一二年九月迄である。もっとも、それ以前の行政との交渉はあるわけであり、それを踏まえて言えば、ここに記す交渉・協議とは、より正確に言えばその再開である。再開した理由は、追悼碑への具体化の他に、もう一つの発端となる出来事があった。

二〇一〇年二月一日、六八周年の追悼集会を終えた翌日、慣例となっていた韓国遺族による市役所への「表敬訪問」が行われた。懇談の終わりに、犠牲者を父にもつ全錫虎(チヨン・ソッコ)さんが、協力の姿勢を全く見せない宇部市行政に憤り、席を立ち上がると、市長代理の健康福祉部長へと歩み寄った。一同が息を飲んで見守る中、おののく健康福祉部長に全さんは、しかし、右手を差し出して握手を求めたのである。そして日本語でこう言った。「協力して下さい」と。それに対して、久保健康福祉部長は「宇部市として何が協力できるのかは、市民と協議しなければならない」と応じた。因みに、久保部長はその年度末に退職している。

その頃、「刻む会」では、最早、宇部市行政の協力は得られる見込みはないとし、市役所との交渉は、ほぼ年に一回の韓国遺族の表敬訪問への同行時のみとしていた。そんな中、全さんが改めて表した憤りと、しかしその相手への敬意は、「刻む会」にも改めて市役所への交渉を始める必要性を感じさせるものとなったのである。

二〇一〇年七月九日、協議開始のための準備会を開催し、①協議すべき「市民」には「刻む会」が当たること、②年に一回の全体会を行い、その他具体的には課別の協議をすること、③全体会の構成は、市役所側は総務管理課、広報広聴課、国際推進課、資産税課、公園緑地課、文化財活用推進室であること、④市役所側の窓口は広報広聴課が担当すること、などを決めた。そして翌八月に第一回の協議会を開催し、その目的を「一九四二年に長生炭鉱で起きた水没事故（水非常）への対応を通して、韓国並びに朝鮮半島との国際交流、及び在日コリアンとの交流を築くために、協力体制を築く」と定め、以後、約二年間に亘り一六回の協議を重ねた。また、協議を効果的に進めるために、様々な準備書面を事前に提出もした。協議事項は多岐に亘った。大まかに記せば「追悼碑への協力」「遺骨の収集」

「ピーヤ等の保存」「事故に関する市民への情宣や教育」であり、その他、入手した土地への固定資産税の減免についてや、事故に関する資料提供について等がある。

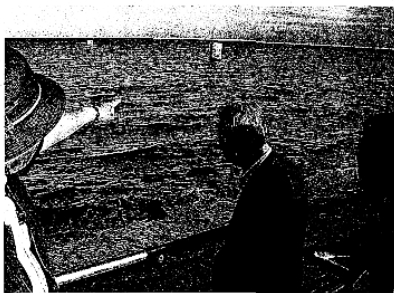
しかし、結果は、既に記したとおり、全くと云ってよいほど実りはなかった。むしろ、そこに現れた職員の態度にはしばしば憤りを感じざるを得ないものがあつた。例えば、調査や検討についての約束の反故、代理出席者への伝達漏れ、「国の責任だ」

長生炭鉱水没事故

宇部市が看板設置へ

宇部市炭鉱の海面から煙突のような遺構が2本、突き出ている。1942年に大規模な水没事故が起きた旧長生炭鉱の排気口だ。1つは作業者183人は今も海底に眠る。事故から70年。市は公的記録として初めて、事故に関する看板を近くの場所に設置することを決めた。

長生炭鉱水没事故
1942年2月3日、海底坑道に海水が流入して183人が死亡した。45年に石炭生産が実質終了。91年に「長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会」が発足し、92年から韓国側遺族を招いて追悼集会などを開いている。



長生炭鉱の「ピーヤ」と呼ばれる排気口を見守る刻む会のメンバー、宇部市。

「歴史的事実伝える方針」

毎年、事故があつた2月3日前に市民団体が犠牲者をしのぶ追悼集会を海岸近くで開いている。市は、来る集会に合わせて看板を作る考えだ。文書については調整中、担当者は「できる範囲で歴史的事実を伝える方針」と語った。長生炭鉱の水没事故に関し、市がこうした文書を対外的に示すのは事実で、これが初めてとなる。

人々が強制労働などで来た朝鮮半島出身者や亡くなった者、遺族から犠牲者の名前を記した追悼碑を建立するよう要請されていた。だが、市は「地方自治体が判断するに値しない」として断ることにしている。

また、市はこれから、市の発展の礎を築いた炭鉱の歴史を伝える方針で、この追悼碑は歴史を刻む一環として、排気口が何であるかが分かる看板を設けることにした。という。常盤公園にある石炭記念館で、水没事故について何らかの形で学べるよう本格的に表記することを検討している。

水没事故への対応を市と話し合っている市民団体「長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会（山口県常盤公園の小便所作事務局長代表）の小林太作事務局長（宇部緑地教会牧師）は「未解決の問題は多いが、市の看板設置はうれしく思う。歴史の真実に向き合った判断を今後も期待したい」と話す。

刻む会は、これとは別に、遺族の要望を受け、名前を刻んだ追悼碑建立のための募金活動を展開している。近くには92年に作られた追悼碑もあるが、犠牲者の名前がないため、思いついたように集まっていた。目標の2千万円を約1300万円に減らし、来年2月の完成をめざすことが決まった。

宇部市がやっと看板設置に動き出した！

街」を掲げていたことは、皮肉以外の何ものでもない。

並行して、件の土地への追悼碑建立計画を進める中で、「刻む会」の理解として、改めて、旧長生炭鉱跡地には建立できない理由をより明確化しておく必要が確認され、土地の調査を行ったところ、法的には旧長生炭鉱跡地のかかなりの部分は宇部市に帰属していることが判明した。協議が実りを得られない中、その土地の使用許可を要請したのが二〇一二年三月のことであった。

翌四月、検討課題となっていた土地の使用について市役所からの回答は拒否であった。その理由は明らかにされていない。しかし、それと同時にこの時、突如として、ピーヤ近くの防波堤への説明板設置を行うと言う。これについても、現地にはピーヤのことや事故を知らせる説明板などが一切ない中、「刻む会」からは再三要望してきたことであったが、それまで市役所は「海岸法」を盾に出来ないとしてきたものである。法律が変わったわけでもなく、何故に急に設置することとしたのか、明確な理由は定かではないが、延べ四〇時間以上に亘る協議会の唯一の実りと言えば、この一点のみでしかない。しかし、その説明文の内

容については未だ不明である。「刻む会」からは、既に文案を提出はしている。

追悼碑建立の目的、すなわちかつての戦争が未だに残す傷と、それ故に痛み続けている人々との間にある溝を埋めて行くには行政の協力は不可欠であると思う。何故ならば、言うまでもなく、戦争遂行に市行政は間違いなく協力したのであり、強制連行も強制労働も、そして事前に事故の危険が言われていたにもかかわらず起きた水没事故も、まさにその最中の出来事だからである。しかし、未だ宇部市役所は、この事実に向き合おうとしていないと言わざるを得ない。彼らがしばしば口にした「未来志向」とは、現時点では単に過去を見ないという意味でしかない。

間もなく着工する追悼碑は、稚拙な言い訳に終始している宇部市行政と、引いては日本国政府を、改めて白日の下に曝すことになるであろう。しかし、わたしたちはそれを決して願っているわけではない。わたしたちが願っているのは、いつの日にか、全ての子ども達が、互いの歴史に本当の意味で誇りを持って、対等に出会い、笑いあえる日である。

**いよいよ追悼碑建立！
しかし、まだ募金が足りません！
ご協力をよろしくおねがいします**

同封の郵便振替用紙をご利用ください。

【郵便払込口座】

長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑建立募金 01370-9-98603



海に沈んだ長生炭鉱を学ぶ

―「春のフィールドワーク」と

「夏の学習会」報告―

長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

木村道江

【春のフィールドワーク】

三月三十一日（土）午前十時から十二時過ぎにかけて、追悼碑建立予定地↓新浦（第二坑の慰霊碑）↓長生炭鉱社宅跡↓旧長生駅↓殉難者之碑↓石炭捲き揚げ機跡↓本坑口↓第三坑口↓ピーヤの見える砂浜等々を



通称「炭鉱（ヤマ）の男たちの碑」の前で説明する刻む会の内岡さん

（山口民報社 山本晴彦さん撮影 2012.3.31）

ゆっくり歩きながら説明を受けました。春は時候に恵まれているということで、今年初めての実施でした。「旧長生駅跡」が宇部市街地方向に向かうカーブの線路左の部分だけに停留所があったという点と、従来の本坑口は炭鉱（ヤマ）の神の祠が置かれていた場所で、本坑口はそこから二〇〇三〇mほど海岸寄りにあるという事実が新たに判明しました。子ども達を含めて参加者が四〇名を超えたのは嬉しいことでした。

【夏の学習会】

八月四日（土）に従来の夏のフィールドワークにあたる「炭鉱の勉強と韓国・朝鮮文化を体験する」学習会を、西岐波ふれあいセンターで実施しました。そのあとで海岸のピーヤにお参りするという流れでした。三〇名を超える参加者がありました。春のフィールドワークや夏の学習会に出来るだけ多くの小学生や中学生に参加してもらおうと、宇部市で人権・同和教育に熱心に取り組まれている先生からご紹介いただいた先生のいる学校を事前訪問しました。

【隣保館や小学校訪問】

毎回チラシを持参し、展示をお願いしてきましたが、今回は館長さん関係者のボラ

ンティアさんと、お茶を飲みながら長生炭鉱のことをお話しする時間を持つことができました。

私は宇部市の住民になってから二三年、地元の上宇部隣保館に足を運び、ボランティアさん等と地域の活動などについてお話が出来たことは初めてのことでした。さっそく夜の人権学習会に参加しました。

○学校訪問して

学校訪問し、チラシ配布をお願いするという事は以前から実施していましたが、校長室に案内されて、校長先生とお話をするか、玄関先で教頭先生にチラシ配布をお願いするというものでした。

今年の春からは、紹介いただいた学校の先生を訪問し、チラシの配布をお願いすることにしました。理解を示してくださる先生であるという前提があり、学校へ伺う足も軽く、新たな出会いを楽しみに訪問することが出来ました。地元の西岐波小学校はもとより上宇部小学校では、毎年六年生全員が人権学習の一貫として、長生炭鉱のフィールドワークを実施しているとのことでした。又ある小学校の若い教師は、自分自身が知らないで現地を歩いてみたのととでした。訪れる学校ごとに快く対応して

くださり、ある高校では初めて出会った先生ですが一時間余りも話し込んでしまったりと、以前事務的な話だけに終わっていた訪問が今回春と夏、二度の学校訪問では、以前から交流があったかのような感覚で訪問でき、温もりのある人の繋がりを実感しました。

研修会場では、炭鉱のことについて学習を終え会場を食堂に移動し、金静媛さんの指導のもとに親子やグループに分かれて、チヂミを作りました。韓国風の冷たいスープとチヂミをいただきながらキムチのこと、唐辛子などの由来や、伝来についてお話を聞きました。参加者が、一同に会して食事



韓国・朝鮮の文化の説明（チヂミ料理の体験）
宇部日報 2012. 8. 7

をすることができ、会場が和やかなものになりました。参加者の中には、韓国から研究のために山口大学へ来ている人や、ベトナム人留学生などの参加があり、国際色豊かな交流のひと時が持てました。

長生炭鉱水没事故 71 周年 追悼集会

2013年2月2日(土)

☆追悼碑完成記念式典 及び追悼式

一一時

西岐波床波漁協前
追悼碑建立地にて

☆追悼集会

一四時

宇部市シルバー
ふれあいセンター
ふれあいホールにて
・遺族による証言
・朗読劇など

☆レセプション

一八時

国際ホテル宇部
中華料理 桃花林
会費 五〇〇〇円

※お申し込みは事務局まで

朗読劇「アボジは海の底」 ～追悼碑完成記念イベント～

作・広島友好

原作＝紙芝居「アボジは海の底」 脚本・山口武信

【制作】長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

あなたも歴史に残る記念すべき舞台と一緒に朗読劇に出演しませんか？

ただいま、朗読劇の劇団員募集中！

《条件》宇部での毎週の稽古にほぼ参加可能な方

※お申込み・お問い合わせは事務局まで



刻む会・活動日誌

(前回より7/5以降)

- ▽ 七月一七日(火) 事務局会議及び建立委員会
- ▽ 七月三〇日(月) 建立予定地草取り
- ▽ 八月 四日(土) 夏のフィールドワーク (8～9頁参照)
- ▽ 八月 九日(木) 第二八回の山口県人権・同和教育研究集会にて講演(下段参照)
- ▽ 八月一九日(日) 日本基督教団西中国教区「追悼と、平和を求める集会」でアピール
- ▽ 八月二二日(火) 平和のための戦争展 展示及びお話(下段参照)
- ▽ 八月二三日(木) 事務局会議及び建立委員会
- ▽ 八月二五日(土) 演劇「おぼれる夢のウミガメ」(大阪)でアピール(下段及び次頁参照)
- ▽ 九月 二日(日)・三日(月) 高暮(こうぼ)ダム朝鮮人強制連行フィールドワーク(日本基督教団西中国教区部落解放現場研修会)にてアピール(次頁参照)
- ▽ 九月 五日(水) 日本聖書聖書神学校職員フィールドワーク受け入れ

八月九日(木)

第二八回の山口県人権・同和教育研究集会が小郡生涯学習センターであり、『朝鮮炭鉱』と呼ばれた長生炭鉱は今」というテーマでお話させてもらいました。七〇年前の長生炭鉱水没事故は過去の問題ではなく、今日の政府や行政、私たち一人ひとりの有り様が問われている問題であることを訴えました。



第28回山口県人権・同和教育研究集会 社会教育分科会
2012.8.9 小郡生涯学習センター

八月二二日(火)

山口市の市民会館で恒例の「平和のための戦争展」が行われ、今年は長生炭鉱関係のパネル展示に加えて、「戦争と人権」を考える一例として長生炭鉱の「水非常」を報告する時間をいただきました。参加の皆さん

は長生炭鉱の事故をよくご存じて、後の質疑応答は盛り上がりました。主催者の方で募金を呼びかけてくださいました。



「平和のための戦争展」で長生炭鉱水没事故を報告
2012.8.21 山口市民会館

八月二五日(土)

大阪市城東区野江の劇団未来ワークスタジオの演劇「おぼれる夢のウミガメ」(作/広島友好さん、演出/森本景文さん)を観に出かけました。会場は満員でした。演劇内容↓「ときは、二〇一一年八月―東日本大震災から六ヶ月後。大阪・京橋界わいに住む、「男」と妻の平穏な家庭―母は高齢者施設に入っている。「男」は、東日本大災害の状況を知ったことをきっかけに「ウミガメの夢」をみる。それは、母から聞かされた「六九年前の出来ごと」(―長生炭鉱水没事故の出来事であった。―「男」の同



西日本演劇フェスティバル
「おぼれる夢のウミガメ」
2012.8.25 未来ワークスタジオ



高暮ダム着工当初、手前左の
一段低い場所に強制連行され
た朝鮮人の飯場があった。
(1940年)



11/3 脱原発・平和日韓連帯自転車ツア
ーに参加の皆さんとピーヤの見え
る海岸で



▽ 九月一日(火) 護憲大会にてアピール

(維新公園)

▽ 九月二〇日(木) 事務局会議及び建立委員会

▽ 一〇月一七日(水) 事務局会議及び建立委員会

▽ 十一月三日(土)

脱原発・日韓連帯自転車ツアー来宇

フィールドワーク受け入れ(下段参照)

▽ 十一月二日(月)

曹洞宗中国管区人権主事研修会

フィールドワーク受け入れ

▽ 十一月二日(木)

部落解放・人権政策確立要求埼玉県実行委員会

フィールドワーク受け入れ

▽ 十一月三〇日(金) 事務局会議及び建立委員会

「刻む会たより」発送作業①

▽ 十二月 四日(火) 「刻む会たより」発送作業②

僚、神経内科医師、在日くんも「夢の中」

に現れて。生きるということは？日本の歴

史は？劇のなかで一挙に問いかけてくる」

：心に迫る演劇でした。演劇終了後にアピ

ールする機会をいただき、その上主催者の

方々に募金箱も作ってもらい感謝でした。

募金箱は大事に使わせていただきます。

九月二日(日)・三日(月)

広島の神野瀬川上流にある「高暮(こう

ぼ)ダム朝鮮人強制連行フィールドワーク」

(日本基督教団・西中国教区部落解放現場

研修会)に参加し、アピールさせてもらい

ました。「高暮ダム強制連行を調査する会」

代表の実国義範さんは、長生炭鉱水没事故

犠牲者追悼式に何度か参加された方でした。

一〇月一七日(水)

大分県竹田市久住の法華院温泉で新井英

一コンサートがあり、募金パンフを配布さ

せてもらいました。

十一月三日(土)

脱原発・平和日韓連帯に参加された皆さ

ん三〇数名と交流会(西岐波ふれあいセン

ター)と長生炭鉱フィールドワークを行い

ました。

「長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑建立募金」会計報告

2012年6月1日～11月30日

(円)

収 入				支 出			
科目	期間実績	累計	備考	科目	期間実績	累計	備考
カンパ	2,864,455	9,300,922		事務費	600	275,595	
物販	10,100	256,700		委員会費	0	7,140	
雑収入	3,835	12,861	銀行利息	土地管理費	798	1,993	草刈燃料代
コンサート	0	769,037	加藤登紀子	雑支出	8,480	56,020	振替手数料等
借入金	-1,050,000	3,800,000		建立費	2,250,000	9,889,130	追悼碑半額
繰入金	0	1,430,000		繰出金	1,430,000	1,444,870	刻む会会計へ
				税金	56,250	283,735	固定資産税
				小計	3,746,128	11,958,483	
				残高	-1,917,738	3,611,037	
合計	1,828,390	15,569,520		合計	1,828,390	15,569,520	

(個人) 秋吉隆雄 麻野他郎 飯田 健 石飛 宏 今関力ネ子 上里恵子
 宇佐美節子 江柄勝雄 呉世憲 大岡勝義 岡田淳子 小川 信
 沖村光子 小田隆弘 川津こずえ 木原千成 木村郁恵 小糸健介
 小中 進 坂 貞子 佐藤セツ子 佐藤坤子② 杉浦真理 鈴木忠実
 須原志保 澄田亀三郎・典枝 高田 穰 田上 中 竹村聡子
 塚田 勲 戸井雄二 土井桂子 長澤連三郎 中里仁一 新留久味子
 野村孝子 林ひろみ 林 萬守 林 尚志 福田富美子 福原孝浩
 藤井和義⑤ 藤井 潔 藤部美世子 藤本明美 真鍋孝幸 三浦 昇
 宮田幸好 八木加代子 山内小夜子 山口武信 山田健一 鐘光洋子
 横山 潤 脇本 寿

(団体) 日朝協会山口県支部 姫路労音 日本基督教団防府教会 日本基督教団門司大里教会②
 日本基督教団宇部緑橋教会と在日大韓基督教会宇部教会合同礼拝 宇部緑橋教会有志
 平和のための戦争展有志 西日本演劇フェスティバル有志
 西中国教区部落解放現場研修会参加者有志 新日本婦人の会岩国支部
 曹洞宗中国管区人権主事研修会 脱原発・平和日韓連帯自転車ツアー
 部落解放同盟埼玉県連有志

その他匿名など 17 件。合計 91 件。

(名前の後の数字は回数)

以上、感謝をもってご報告します。